

観覧料改定のお知らせ

2019年6月6日(木)より、本館展示観覧料を左記のとおり改定いたします。なお、特別展観覧料はその都度、別に定めます。何卒、お願い申し上げます。

◆2019年6月4日(火)まで

一般	高校・大学生	中学生以下
420円	250円	無料

◆2019年6月6日(木)から

一般	大学生	高校生以下
580円	250円	無料

各種割引等につきましては、みんなくホームページをご覧ください。

特別展 「子ども／おもちゃの博覧会」

明治時代以降における日本の社会の大きな変化は、その時々の子どものありようや人びとの子ども観に影響を与えました。本展では、江戸時代から戦後のさまざまな玩具をつづいて、子どもや子どもをめぐる社会の変遷とその意味を探ります。

会期 5月28日(火)まで
会場 特別展示室

■関連イベント
特別展関連ワークショップ

「折り紙教室」紙芝居「石けりであそぼー」の3種類のワークショップをおとして、昔の遊びを体験いただけます。
日時 各日11時30分〜12時、13時〜13時30分、14時30分〜15時(各回30分)
開催日につきましては、みんなくホームページをご覧ください。

企画展

「旅する楽器——南アジア、弦の響き」

南アジアの弦楽器は、中央アジアや西アジアから伝えられた楽器が改良され定着したものが多く、そのいくつかは南アジアでの変容を経て東南アジア、東アジアにも伝えられました。楽器が広大な地域を旅して伝播していく様を知ることで、ユーラシアにおける長期的な文化交流を実感してください。

会期 5月7日(火)まで
会場 本館企画展示場

企画展

「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——『みられる私』より『みる私』」

片倉もとこ(本館名誉教授)が半世紀前に撮影した写真を手がかりに、色鮮やかな物質文化からサウジ女性の生活文化の変遷をたどりま。

会期 6月6日(木)〜9月10日(火)
会場 本館企画展示場

音楽の祭日2019 in みんなく

1982年にフランスで、夏まの日にみんなくで音楽を楽しむ「音楽の祭典」がはじまり

みんなくセミナー
日時 5月18日(土)13時30分〜15時(13時開場)
会場 本館セミナー室
参加費 無料
※参加券を当日12時30分前から本館1階案内所にて配布
※メイン会場が満席の場合は中継会場をご案内いたします。



バコパンバ遺跡の保存作業に携わる地域住民

文化遺産の持続的な活用をめざして
——南米ペルー北高地バコパンバ遺跡での試み

講師 関雄(本館 教授)
南米アンデス文明初期の巨大な神殿遺跡バコパンバの調査は、13年にもおよびます。現在、住民とともに実施している、文化遺産の持続的活用を目指す活動を紹介します。

みんなくウィークエンド・サロン
研究者と話そう
本館の研究者が「現在取り組んでいる研究」「調査している地域(国)の最新情報」「みんなくへの展示資料」について分かりやすくお話します。

5月12日(日)14時30分〜15時 本館ナビひろば
新ビデオテク紹介
「ただいまオンエア」
——ソニック・ティアスポラをつなぐ地域ラジオ
話者 三島禎子(本館 准教授)
5月19日(日)14時30分〜15時 本館ナビひろば
アーミッシュキルトの誕生
——米国のエスニックグループの交流史から
話者 鈴木七美(本館 教授)
5月26日(日)14時30分〜15時 本館ナビひろば
アンデスの悪魔の踊り
話者 八木百合子(本館 助教)
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)

ました。みんなくでも、世界のさまざまな楽器を使って「音楽の祭日」を祝います。

日時 6月23日(日)10時15分〜16時35分
(10時開場)
会場 特別展示室
※申込不要、参加無料(展示をご覧くださいになる方は、展示観覧券が必要です。)
お問い合わせ先
企画課「音楽の祭日」担当
電話 06・6878・8210
(土日祝を除く9時〜16時)

みんなく映画会 第45回ワールドシネマ

「サーミの血」

独自の言語と文化を持つサーミ人の少女が、国の分離政策によって差別的な扱いを受け、自らのルーツと葛藤しながら成長し生きる姿をおとして、民族のアイデンティティについて考えたいと思います。

日時 6月16日(日)13時30分〜16時30分
(13時開場)
会場 特別展示室(定員350名)
※申込不要、要展示観覧券
※参加券を当日11時から特別展示室入口にて配布

●みんなく無料シャトルバスのご案内

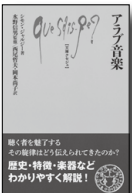
大阪モノレール万博記念公園駅とみんなくの間の直通送迎バスを特別展「子ども／おもちゃの博覧会」の会期中に運行します。
運行日 5月28日(火)までの土曜・日曜・祝日
1日11往復、所要時間10分、無料
運休日 平日、5月1日(水・祝)

※万博記念公園イベントが開催される場合は臨時に運休することがあります。詳細は本館ホームページをご覧ください。



■櫻永 真佐夫 著
『殴り合いの文化史』
左右社 3,700円(税別)

「殴り合い」が孕むすべてのものを、ボクサーにして人類学者の著者が暴く前人未到の文化史。名誉と屈辱、理性と本能など人間の本性に迫る章から「ウルトラマンはなぜ殴らないのか」といった雑学まで、暴力論とは異なる視点から「殴り合う」ことの全貌を描いた(怪)力作。



■シモン・ジャルジー 著、水野 信男 監修、西尾 哲夫、岡本 尚子 翻訳
『アラブ音楽』
白水社 1,200円(税別)

中東・北アフリカを舞台に育まれてきた音文化のなかでも、音楽に焦点をしぼり、歴史、特徴、楽器などについてわかりやすく解説。西洋音楽とアラブ音楽の双方に造詣の深い著者が、ヨーロッパ・キリスト教世界とアラブ・イスラム世界の接点という特殊な立ち位置から、アラブ音楽へのアプローチを試みる。



刊行物紹介
■ロブ・フラワーズ 著、八木 百合子 監訳、北川 玲 翻訳
『世界一おもしろいお祭りの本』
創元社 2,000円(税別)

世界には、古くから伝わる不思議なお祭りがたくさんある。本書では、その地方以外ではほとんど知られていない世界の40のお祭りにスポットを当て、そのユニークな衣装や儀式をカラフルで楽しいイラストとともに紹介する。

友の会

友の会講演会

会場 本館第5セミナー室(当日先着順・定員96名)
※会員無料(会員証提示)、一般500円

第488回 5月4日(土)祝13時30分〜14時40分
「特別展子ども／おもちゃの博覧会関連」
紙人形と着せ替え遊び——遊ぶ身体と記憶
講師 森下みさ子(白百合女子大学 教授)

第489回 6月1日(土)13時30分〜14時40分
「陽気な墓」をおして考える生と死
講師 新免光比呂(本館 准教授)

ルーマニアのマラムレシュ地方には、陽気な墓と呼ばれる墓地があります。色とりどりの墓標が並ぶ姿は墓地の陰気なイメージを払拭します。しかし、死が陽気なものであるはずがありません。あえて陽気な墓標で死者を想起しているのはなぜでしょうか。生と死の間の受容であり、死は永遠の休息だからでしょうか。人により、民族により、時代により死の表象は異なります。しばし死への想いを抱いて西欧文化を旅してみましょ。

東京講演会

第126回 7月13日(土)13時30分〜14時40分
「みんなく名誉教授シリーズ」
チワン(壮)族の文化の資源化の現状
講師 塚田誠之(本館 名誉教授)

チワン(壮)族は、中国の55の少数民族のうち最大の人口を有し、その多くが中国南部の広西壮族自治区に居住しています。歴史的に漢文化の影響を受容してきましたが、歌掛けやモチ米食品への嗜好性など独自性を保持してきました。1990年代以降、中国の経済発展にもない、かつて男女の歌掛けの際に用いられた「織球」が商品化され、高床式住居が観光資源として活用されるなどの変化がみられます。本講演では、こうした事例をつづじて文化の資源化について考えます。

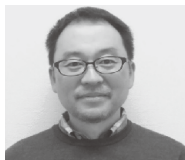
※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。
※要事前申込、会員無料(会員証提示)、一般500円

国立民族学博物館・国立科学博物館
共同企画展
「自然をつなぐ、世界をつなぐ」
会期 6月16日(日)まで
会場 国立科学博物館 日本館1階
企画展示室(東京・上野)
休館日 月曜日、5月7日(火)
「ただし、5月6日(月)・休館」
6月10日(月)は開館
主催 国立科学博物館
国立民族学博物館

※各イベントについて詳しくはみんなくホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時〜17時(土日祝を除く)です。



研究部新メンバー
奈良 雅史 准教授(超域グローバル科学研究部)
筑波大学大学院で博士号を取得後、日本学術振興会特別研究員P.D.、ポンドー政治学院客員研究員として研究に従事。専門は文化人類学。北海道大学メディア・コミュニケーション研究科を経て現職。



小野 林太郎 准教授(人類文明話研究部)
上智大学大学院で博士号を取得後、総合地球環境学研究所、オーストラリア国立大学で研究に従事。その後、東海大学海洋学部を経て現職。専門は東南アジアやオセアニアの海域世界における人類の移住史や海洋・島嶼適応に関する研究。